

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）について

栃木県教育委員会事務局義務教育課

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校第 6 学年、義務教育学校前期課程第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年、
中学校第 3 学年、義務教育学校後期課程第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年の全児童生徒

(3) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- ※ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととしている。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・ 児童生徒に対する調査
- ・ 学校に対する調査

(4) 調査実施日

教科に関する調査（中学校英語以外）	令和 8（2026）年 4 月 23 日（木）
児童質問調査	令和 8（2026）年 4 月 24 日（金）～5 月 8 日（金）のうち 文部科学省から指定された実施日
生徒質問調査 教科に関する調査（中学校英語） 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」	令和 8（2026）年 4 月 20 日（月）～4 月 23 日（木）のうち 文部科学省から指定された実施日
教科に関する調査（中学校英語） 「話すこと」 （当日実施は抽出校 9 校のみ）	当日実施：令和 8（2026）年 4 月 24 日（金）、4 月 27 日（月） 後日実施：令和 8（2026）年 4 月 28 日（火）～5 月 29 日（金） いずれも文部科学省から指定された実施日
学校質問調査	令和 8（2026）年 4 月 1 日（火）～4 月 17 日（金）のうち 各学校の任意の実施日

(5) 調査を実施した児童生徒数・学校数

学 年	児童生徒数	実施校数	（内訳）
小学校第 6 学年	14,768 人	331 校	小学校・義務教育学校 330 校 特別支援学校小学部 1 校
中学校第 3 学年	13,898 人	161 校	中学校・義務教育学校 156 校 特別支援学校中学部 5 校
全 体	28,666 人	492 校	

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果

ア 平均正答率・平均 I R T スコア

(単位：％、スコア)

学年	項目	県・全国（公立）	国語	算数・数学	英語 3 技能 (聞く読む書く)
小学校 6 年	設問数		1 3	1 6	
	平均正答率	本県	6 1	5 5	
		全国	6 0. 9	5 6. 4	
中学校 3 年	設問数		1 5	1 6	2 2
	平均正答率	本県	6 4	5 7	4 9 4
		全国	6 3. 9	5 7. 0	4 9 9

※ 文部科学省では、各都道府県の平均正答率を整数値のみで公表している。

※ 中学校英語では、I R T スコア（網掛け）で結果を公表している。

イ 学習指導要領の内容・領域別の平均正答率・平均正答数

【小学校】

① 国語

(単位：％)

学習指導要領の内容		本県（全国）	全国との差
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項（4問）	6 6. 5（6 6. 8）	－0. 3
	(2) 情報の扱い方に関する事項（2問）	5 1. 1（5 2. 3）	－1. 2
	(3) 我が国の言語文化に関する事項（0問）	－	－
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと（3問）	6 5. 0（6 5. 8）	－0. 8
	B 書くこと（2問）	4 5. 7（4 5. 7）	0. 0
	C 読むこと（2問）	6 6. 1（6 5. 9）	0. 2

【全国の結果との比較】

- ・ 「思考力、判断力、表現力等」の「C 読むこと」の内容において、全国平均正答率を上回っている。

② 算数

(単位：％)

学習指導要領の領域	本県（全国）	全国との差
A 数と計算（8問）	5 9. 8（6 1. 1）	－1. 3
B 図形（4問）	5 4. 1（5 5. 3）	－1. 2
C 測定（1問）	7 6. 2（7 8. 1）	－1. 9
C 変化と関係（3問）	3 7. 7（4 1. 1）	－3. 4
D データの活用（4問）	4 7. 6（4 8. 6）	－1. 0

※ 「学習指導要領の領域」については、1つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は教科全体の設問数とは一致しない。

【全国の結果との比較】

- ・ 全ての領域において、全国平均正答率を下回っている。

【中学校】

① 国語

(単位：％)

学習指導要領の内容		本県（全国）	全国との差
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項（5問）	6 3. 3（6 3. 0）	0. 3
	(2) 情報の扱い方に関する事項（1問）	7 0. 8（7 0. 4）	0. 4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項（0問）	－	－
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと（3問）	6 4. 6（6 3. 9）	0. 7
	B 書くこと（3問）	6 7. 1（6 7. 4）	－0. 3
	C 読むこと（3問）	5 9. 9（5 9. 7）	0. 2

【全国の結果との比較】

- ・ 「知識及び技能」の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2) 情報の扱い方に関する事項」の内容において、全国平均正答率を上回っている。
- ・ 「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」、「C 読むこと」の内容において、全国平均正答率を上回っている。

② 数学

(単位：％)

学習指導要領の領域	本県（全国）	全国との差
A 数と式（5問）	67.8（67.8）	0.0
B 図形（4問）	48.8（48.7）	0.1
C 関数（3問）	54.8（54.8）	0.0
D データの活用（4問）	53.2（53.5）	-0.3

【全国の結果との比較】

- ・ 「B 図形」の領域において、全国平均正答率を上回っている。

③ 英語

(単位：問)

学習指導要領の領域	本県（全国）	全国との差
聞くこと（2問）	1.1（1.2）	-0.1
読むこと（2問）	1.1（1.1）	0.0
書くこと（3問）	1.3（1.4）	-0.1

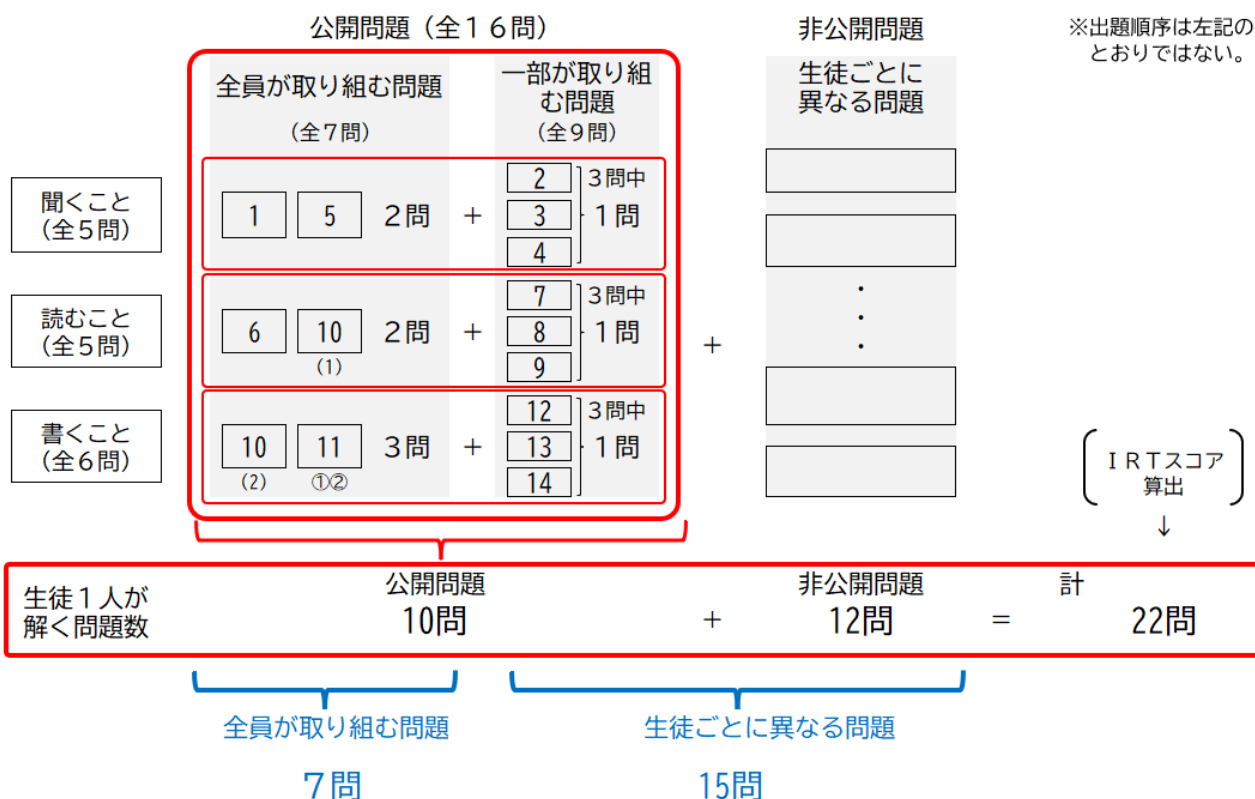
※ 「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」の3領域を1つの調査としてC B T方式で実施した。合計22問の調査結果を集計し、IRTスコアを算出した。（下図参照）

※ 国では、全員が共通して取り組む問題7問のうち、「読むこと」及び「書くこと」の結果を合わせて公表しているが、本資料では分けて算出した。

【全国の結果との比較】

- ・ 「読むこと」の領域において、全国平均正答数と同程度であるが、「聞くこと」、「書くこと」の領域において、全国平均正答数を下回っている。

【問題の構成】 中学校英語3技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のC B T問題）



(2) 児童生徒質問調査の結果

ア 教科の学習について

- ① 「国語（算数・数学、英語）の授業の内容はよく分かる」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合（単位：％）

学年	教科	令和8年度（全国）	令和7年度（全国）※英語は令和5年度
小学校 6年	国語	83.8（81.5）	85.1（82.8）
	算数	78.2（77.5）	79.4（78.3）
中学校 3年	国語	78.5（76.8）	78.9（77.0）
	数学	76.5（74.2）	71.0（70.3）
	英語	65.2（64.2）	64.9（63.9）※

【全国の結果との比較】

- 全ての学年・教科において、全国より高い結果となっており、特に、小学校国語と中学校数学の割合が2.3ポイント高い。

【令和7年度との比較】

- 中学校数学と中学校英語において、肯定的な回答の割合が高くなっている。

- ② 「国語（算数・数学、英語）の勉強は好きだ」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合（単位：％）

学年	教科	令和8年度（全国）	令和7年度（全国）※英語は令和5年度
小学校 6年	国語	59.1（57.4）	59.8（58.3）
	算数	57.7（57.6）	59.1（57.9）
	英語	69.3（66.7）	73.4（69.3）※
中学校 3年	国語	57.6（57.2）	59.1（57.9）
	数学	55.5（56.1）	51.9（53.8）
	英語	49.4（51.2）	49.9（51.9）※

【全国の結果との比較】

- 小学校全教科、中学校国語において、全国より高い結果となっており、特に、小学校英語の割合が2.6ポイント高い。

【令和7年度との比較】

- 中学校数学において、肯定的な回答の割合が高くなっている。それ以外の学年・教科においては、肯定的な回答の割合は低くなっている。

イ 「主体的・対話的で深い学び」及び「学習習慣」について

- ① 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合（単位：％）

学年	令和8年度（全国）	令和7年度（全国）
小学校6年	79.2（77.6）	82.2（80.3）
中学校3年	82.5（78.8）	80.9（77.7）

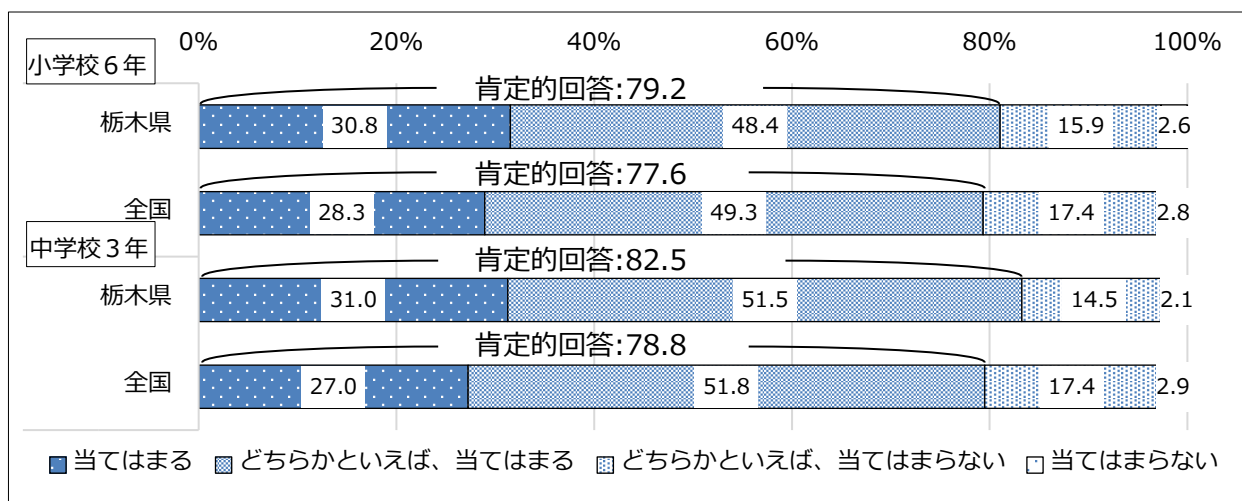
【全国の結果との比較】

- 小学校において全国より1.6ポイント、中学校において全国より3.7ポイント高い。

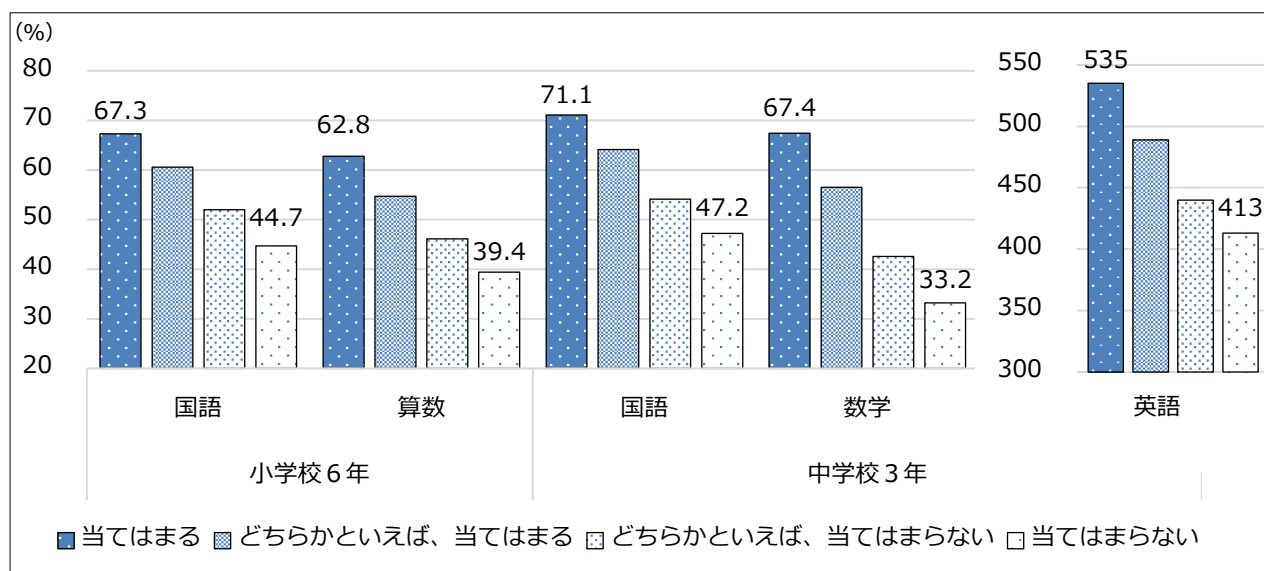
【令和7年度との比較】

- 小学校では肯定的な回答の割合が低くなっているが、中学校では高くなっている。

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問に対して回答した児童生徒の割合



※ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問に対する回答結果と教科平均正答率・IRT スコアとのクロス集計結果



- ・ どの学年、教科においても、「当てはまる」と回答した児童生徒は、「当てはまらない」と回答した児童生徒よりも平均正答率・IRT スコアが高い。

② 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に対し、「できている」、「どちらかといえば、できている」と肯定的に回答した児童生徒の割合 (単位：%)

学年	令和8年度 (全国)	令和7年度 (全国)
小学校 6 年	80.4 (79.4)	83.3 (81.7)
中学校 3 年	79.8 (78.2)	78.9 (77.5)

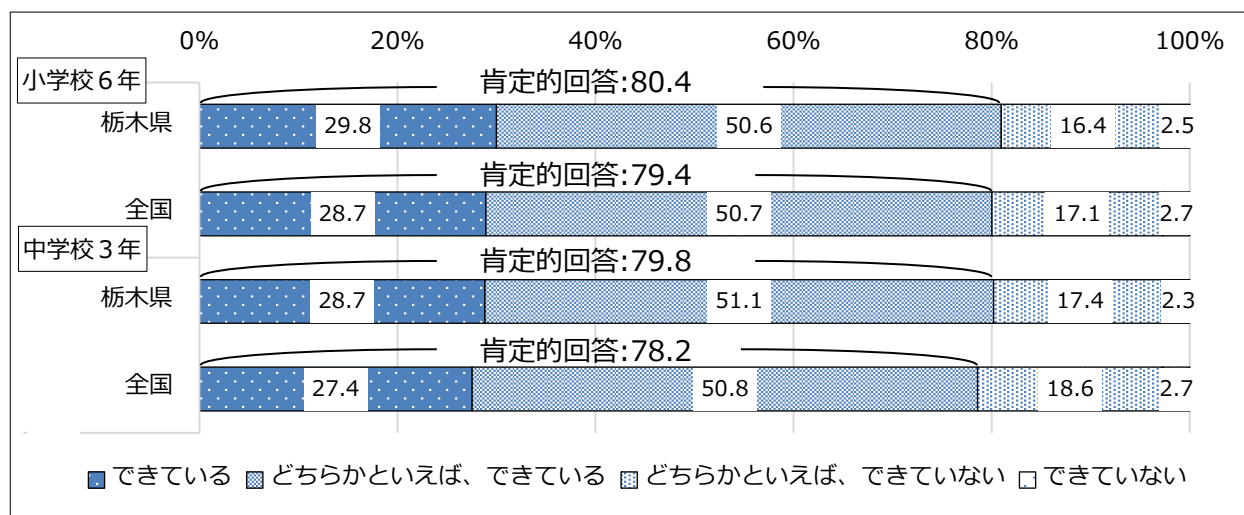
【全国の結果との比較】

- ・ 小学校において全国より 1.0 ポイント、中学校において全国より 1.6 ポイント高い。

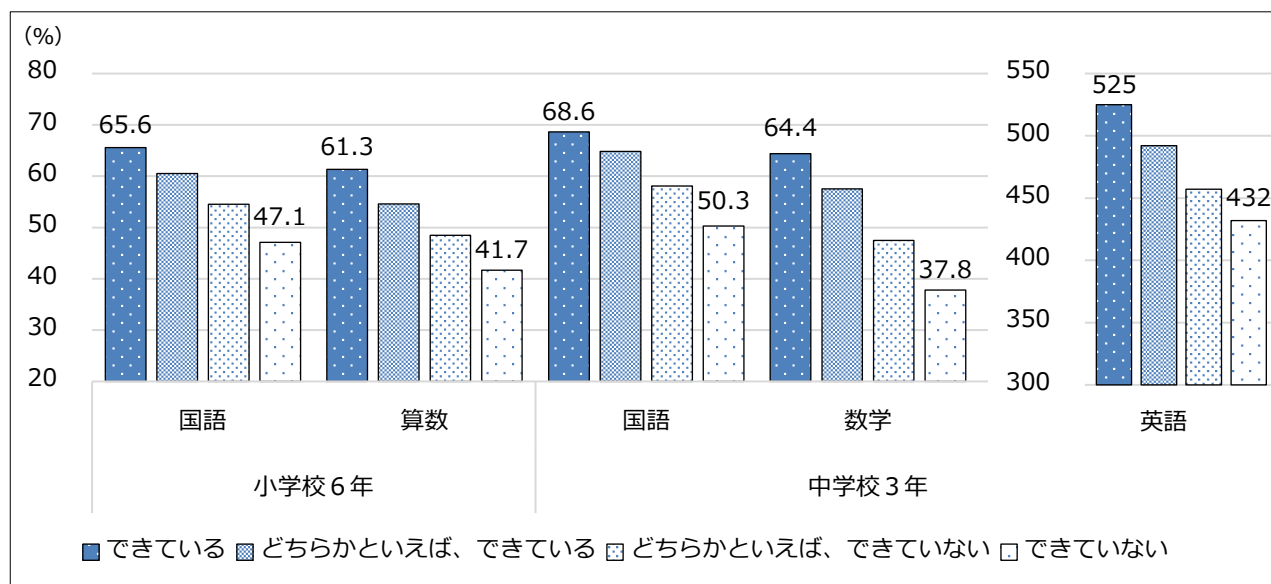
【令和7年度との比較】

- ・ 小学校では肯定的な回答の割合が低くなっているが、中学校では高くなっている。

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に対して回答した児童生徒の割合



※ 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に対する回答結果と教科平均正答率・IRT スコアとのクロス集計結果



- ・ どの学年、教科においても、「できている」と回答した児童生徒は、「できていない」と回答した児童生徒よりも平均正答率・IRT スコアが高い。